

**第1回 さいたま市
総合都市交通体系マスタープラン
(SMARTプラン)
改定委員会**

都市と交通の未来像（案）

未来像の検討プロセス

市民意見の聴取

- 令和5年度に、市民が現状の移動において抱えている課題や、将来の都市や交通がどのようになって欲しいか意見を伺った
- 令和6年度も引き続き市民意見を伺う機会を設ける予定



オープンハウス	イベントにて、パネル展示と聞き取り調査
市民ワークショップ	都市と交通の将来シナリオを考えるワークショップを実施
職員アンケート	移動に関して市民からいただいた意見、今後の部局間連携等についてアンケート
地域組織への出張アンケート調査	コミュニティバスや乗合タクシー、デマンド交通の地域組織へアンケート
インターネットアンケート調査	市民2,000人を対象として実施

社会・暮らしへの影響検討

- 人々の欲求、社会的欲求、技術革新等による変化が社会や暮らしへどのように影響するか現時点でのシナリオを検討
(例：自動運転や新たなモビリティによる影響、リモート環境の充実によるライフスタイルへの影響など)



資料：トヨタ自動車株式会社

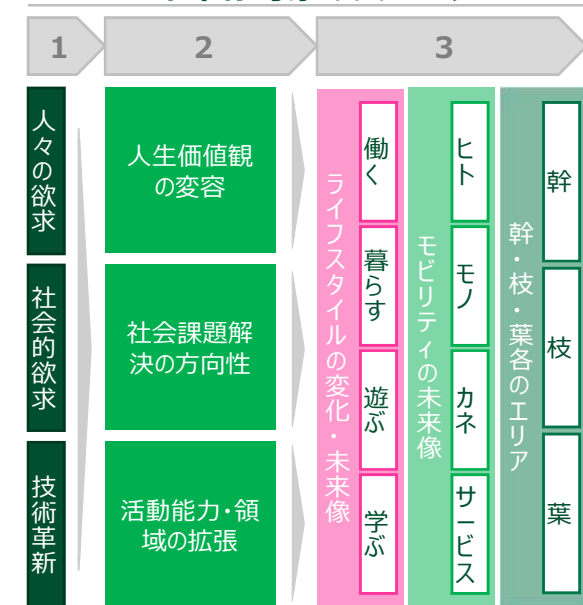


資料：Zip Infrastructure株式会社

未来像の作成

- 将来の生活シーンごと（働く・暮らす・遊ぶ・学ぶ）のイメージを検討
- 都市と交通として目指す全体イメージを検討

未来像考察のフレーム

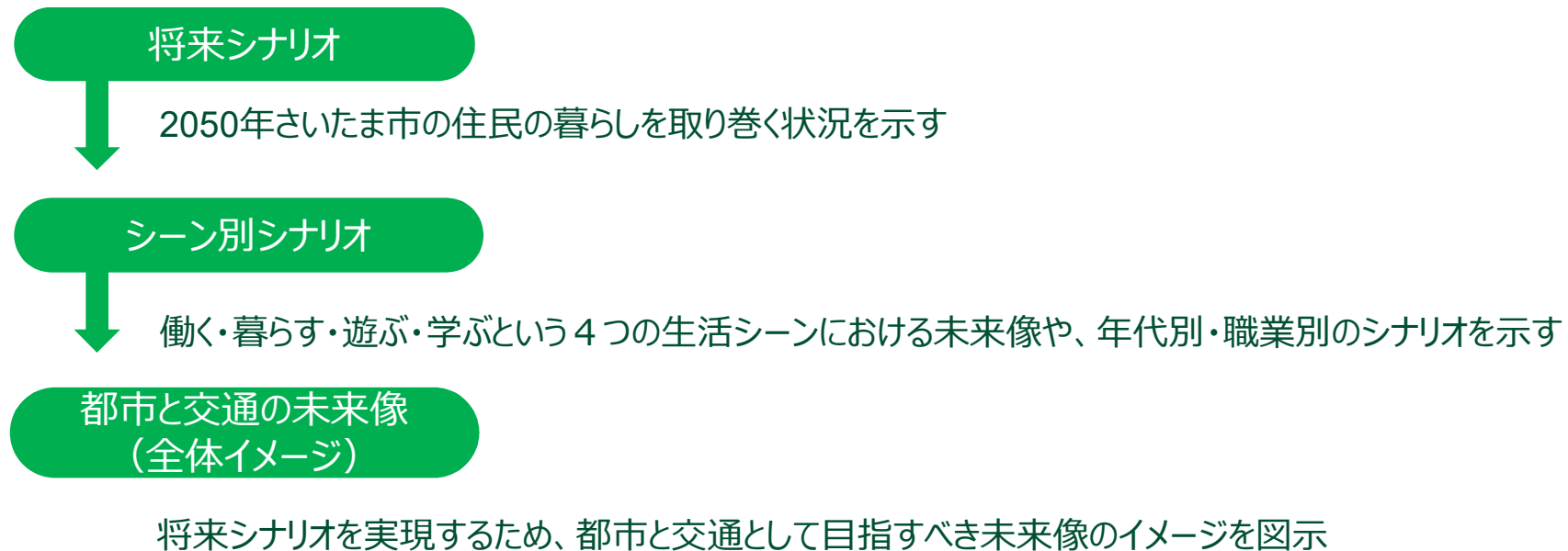


未来像編の全体像

■ 計画期間等

- 未来像のターゲット年次は、2050年とする
(さいたま市総合振興計画基本計画における将来都市像の目標年次)
- SMARTプランの計画年次は、令和8年度～令和17年度までの10年間とする
- 中間年度（令和12年度）に検証を行い、必要に応じて見直すこととする

■ 未来像の構成



将来シナリオ

● 2050年さいたま市の住民の暮らしを取り巻く状況

生活・社会

- さいたま市の人口は、2035年頃まで微増し、そこから減少に転じているものの、**2050年まで人口規模は大きく変わっていない**
- 人口構成としては、3人に1人が高齢者になっているが、仕事や趣味、地域の活動に参加している人が多い。特に**公共交通の利便性が高いエリアでは、活発に行動している高齢者が多く健康寿命も延びている。**
- IoTデバイスがますます普及し、オンライン診療、ネットスーパー、テレワークなど家で出来ることが増えている一方で、移動にかかる時間が少なくなったため、友人とお茶を飲んだり、スポーツ観戦等をリアル空間で楽しむ人が増えている
- オンラインミーティングやネット上でのモノの取引によって、オンラインでのコミュニティ活動が増えている一方、サードプレイスでの地域コミュニティを持つ人も増え、**個人が自分にあったコミュニティを選択し、自由に参加することができている**
- 年齢・肩書・地域の枠組みにとらわれず住民・現場・若者が主体となり問題解決し、**連携・協力・共創を重視する社会へと徐々に変化していく**

交通・移動

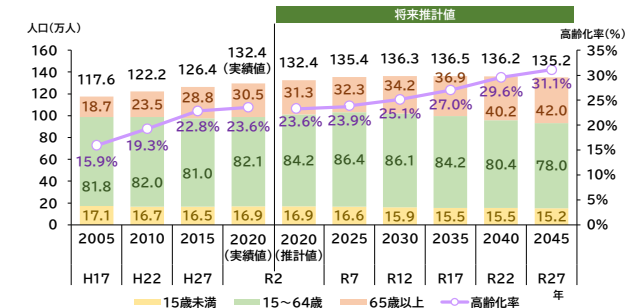
- 鉄道網は既存のサービス水準で2050年も維持されている
- 都心や拠点に向かう路線バスは、**幹線道路では自動運転によって高いサービス水準(運行頻度)で走行しており、所要時間、利用タイミング、歩行距離、時間信頼性、待機場所の環境、乗り心地、乗換回数、コストパフォーマンス**の観点で**利便性・アクセス性が向上している**
- 駅やバス停が遠いエリアでは自動車を使っている人が多かったが、シェアリングや**デマンド・呼び出し型のグリーンスロー/パーソナルモビリティ**などを組み合わせて移動できるサービスが充実し、**自動車が無くとも安全・安心・便利に生活ができる**
- ピークの分散や、公共交通や健康に良い自転車を使う人が増え、**渋滞や満員電車・バスに巻き込まれる人が少なくなっている**
- 都市計画道路の整備や自転車通行空間の整備が進んでいて、自転車で快適に走行できるので、親子で連れ立って緑豊かなサイクリングロードなどへ自転車でお出かけする人が多い
- シェアサイクルやカーシェアなどシェアリングサービスの利用が増え**駅前にあった駐車場・駐輪場の土地利用が進んでいる
- 駅前広場の整備や時間帯での自動車侵入規制、**モビリティハブを中心としたウォークアブルゾーンが整備されている**

まち・環境

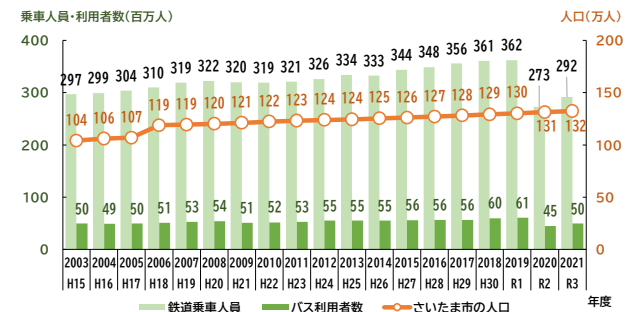
- さいたま市は、2つの都心と4つの副都心を中心に市内の都市機能が集まり、それらをつなぐ交通も多様に選択可能で一体的な都市になっている
- 拠点を中心に都市化が進む一方で、見沼田んぼのような豊かな自然環境や氷川神社などの歴史文化財も豊富に存在し、都市的な生活をしながら自然や文化との共生ができる
- 公共交通が便利で、徒歩・自転車での環境も整っているため、**マイカー利用から公共交通等へ転換され、環境にやさしいまち**になっている
- 駅前にウォークアブルゾーンが整備されることにより、テラス席、移動屋台の利用スペースが生まれ、飲食等の出店の在り方が多様化し、**人が自然と集まるにぎわい空間が生まれている**
- ヒトだけでなくモノの輸送の効率化**やサービスの移動が実現し、公共交通、物流、小売りなど様々なサービスが連携し、より効率化されている
- 地域のお祭り、町内会、目的がなくても誰でも安心して使える**コミュニティスペースが整備されていて、人が自然と集まり、新しい活動が生まれている**



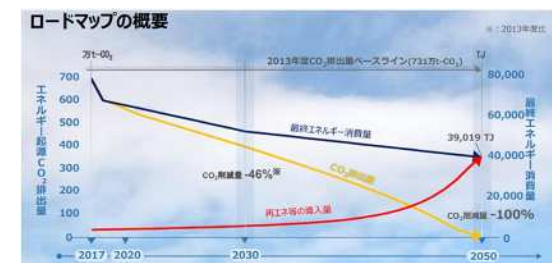
① さいたま市の人口推移



② 鉄道やバスの利用者数



③ ロードマップの概要





keyword

職住近接

子育て

将来シナリオ

【市全体】

- 通信(リアルタイム性)技術の発展により様々な職種でのテレワークが広がり、大宮や浦和の様な都心だけでなく、市内すべての駅でリモートワーク環境が充実している
- 「さいたま都民」として東京に通う頻度が減り、職住近接で効率的に働き、家族との時間、自分の趣味の時間を確保できる人が多くなった
- パーソナルモビリティの中でリモートワークをしながら出勤、時間を有効活用
- 出勤の際はバスや鉄道を利用するが、隊列走行や自動運転、AI配車システムによってバスは利便性が向上し混雑は緩和されている

【都心部】

- 広域的な交通アクセス性により多様な交流が生まれビジネスチャンスが広がる

【郊外部】

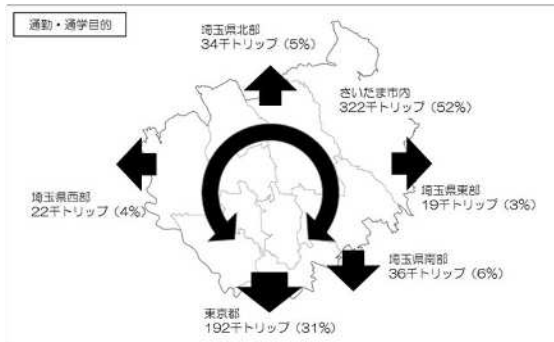
- 自宅からモビリティハブを経由して都心や主要駅まで移動、自動運転化されたモビリティサービスを利用
- 自動車を所有する方もいるが、通勤には利用しない

兆候・見通し

- 2018年時点では、東京方面に通勤する市民が3割程度存在
- 埼玉県は通勤にかかる平均所要時間が全国で2番目に長い【総務省データ】
- 市民の通勤環境に対する意識として、鉄道の車内混雑への不満が高い【市民意識調査】
- アンケート結果からわかること
- 近年では、生活様式の変化や通信(リアルタイム性)技術の発達などの影響を受け、テレワークが浸透
- AIの発展や遠隔操作技術の発展で消滅する職業がでてくる、頭脳労働の割合が増加
- 健康寿命の延伸によって定年の年齢が引き上げられている

移動のデータ

① 通勤・通学目的の移動



資料: 第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

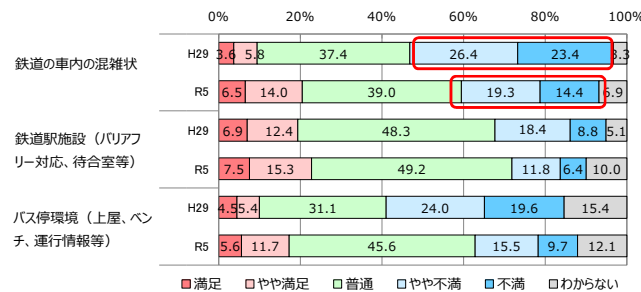
② 通勤・通学時間が長い!? ランキング(R3年)

1位	神奈川県	100分
2位	千葉県	95分
2位	東京都	95分
4位	埼玉県	94分
5位	奈良県	88分
...		
47位	宮崎県	56分
全国平均		79分

資料: 総務省統計局「社会生活基本調査から分かる都道府県ランキング」

通勤環境のデータ

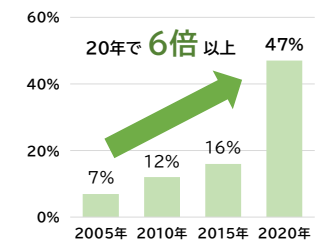
③ 通勤・通学目的の移動



資料: インターネットアンケートによる市民意識調査(R5.12月実施)

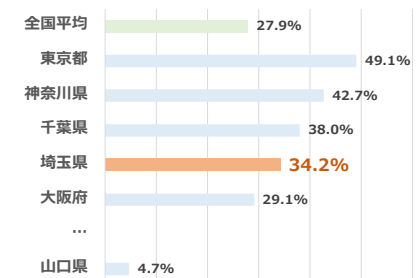
働き方のデータ

④ テレワーク導入率: 全国



資料: 国土交通省「テレワーク実態調査」

⑤ 都道府県別個人のテレワーク実施率



暮らす



keyword

職住近接

子育て

将来シナリオ

【市全体】

- シェアモビリティなど複数の交通手段が集まる場所(モビリティ・ハブ)が整備されているので乗換の抵抗感がなくなった
- お出かけする際には、個人の目的や状況、天候、価値観などに応じて複数の移動手段やルートの中から選択することが出来るようになり、運転免許を返納する方が増えている
- 地域経済循環への意識が変わり、地域通貨を使う方が増えている

【都心部】

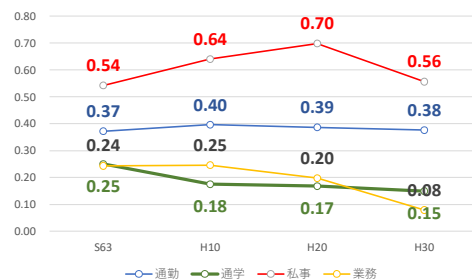
- パブリックスペースが整備され、まちなかに滞在する人が増えている
 - 店舗の在り方が変化し、小売り機能の空間が宅配サービス等の輸送拠点も兼ねている
- 【郊外部】
- 移動販売等の発達により、最寄りのモビリティハブで生活に必要な物品の購入ができる

兆候・見通し

- 2018年時点において、さいたま市における私事目的による外出が減少
- ECなどネットやwebにより買い物をしている人が増加
- PT調査の将来予測において、ネット通販等が拡大したシナリオではさらに外出が減少する見込み【PTデータ】
- アンケート結果からわかること
- 高齢者のスマートフォン利用者が増加
- デジタルネイティブ世代の出現、デジタル空間を介したサービスが増加

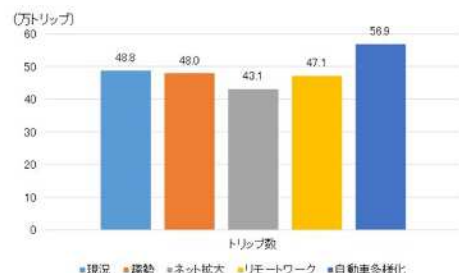
私事移動のデータ

① 目的別一人当たりトリップ数の推移



資料:第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

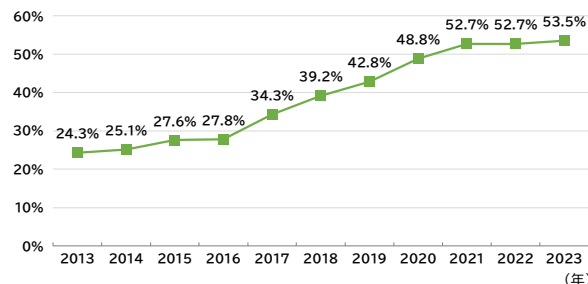
② 東京都市圏PTの将来シナリオ別トリップ数の予測



資料:第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

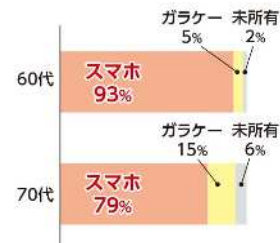
デジタル普及のデータ

③ ネットショッピング利用世帯の割合の推移:全国



資料:家計消費状況調査(総務省)

④ 高齢者のスマートフォン普及率:全国



資料:NTTドコモモバイル社会研究所「研究レポート2023.3.27」

求める暮らしのデータ

⑤ 新たな交通手段



keyword

職住近接

子育て



将来シナリオ

【市全体】

- 都心・副都心を中心にウォーカブルな空間整備が進み、**まちで過ごす時間が増えている**
- 東日本の玄関口としてのアクセス性の良さにより、2拠点居住等、**多様なライフスタイルを支える都市として選ばれ、多様な交流が生み出されている**
- **多様な交通手段を組み合わせ移動**することが出来るので、まちなかだけでなく、スポーツ施設や大きな公園など**多様な場所で活動**する人が増えている
- 移動環境の向上によって活動空間が拡大している
- **バーチャル空間とリアル空間が融合したコンテンツによる楽しみ方が増え、そのコミュニティも多く生まれている**

【都心部】

- 様々な商業施設、体験・コミュニティの場としての施設が集まり、快適な駅前広場や道路空間再配分によって整備された広い歩道や広場空間などネットワーク化されているため、**歩くことを楽しむ高齢者やまちなかで遊ぶ子供が多くなっている**

【郊外部】

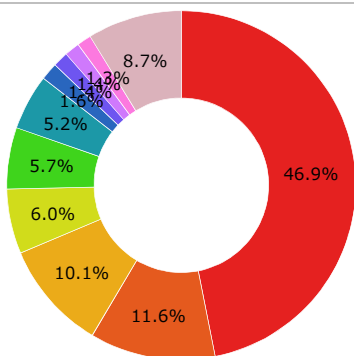
- **遊び道具・施設、娯楽のためのフード・ドリンク、コンテンツのモビリティがハブにある**
- さらなるコンテンツを求めてモビリティハブから路線バスや鉄道に乗り継いでまちなかに遊びに行くこともできる

兆候・見通し

- さいたま市では、国際的なコンベンションセンターや大型スポーツ施設などの都市型の施設が充実
- 浦和まつりや花火大会、プロサッカー、バスケットチームチームを要するほか、ツール・ド・フランス さいたまクリテリウムなどのスポーツイベントなど、年間を通じて多様なイベントが充実
- 近年は、自然や地域で交流や活動を楽しむため、二地域居住を志向する方が増加
- 公園や見沼たんぼなどの豊かな自然、氷川参道や岩槻宿などの歴史と文化に触れられる、多様な観光資源が存在
- 新型コロナ感染症拡大前までは、市内を訪れる観光者数が増加傾向
- ARを活用したゲームなどのコンテンツが流行している

市内の魅力のデータ

休日14時の指定地域滞在人口の
居住都道府県別割合（日本人）

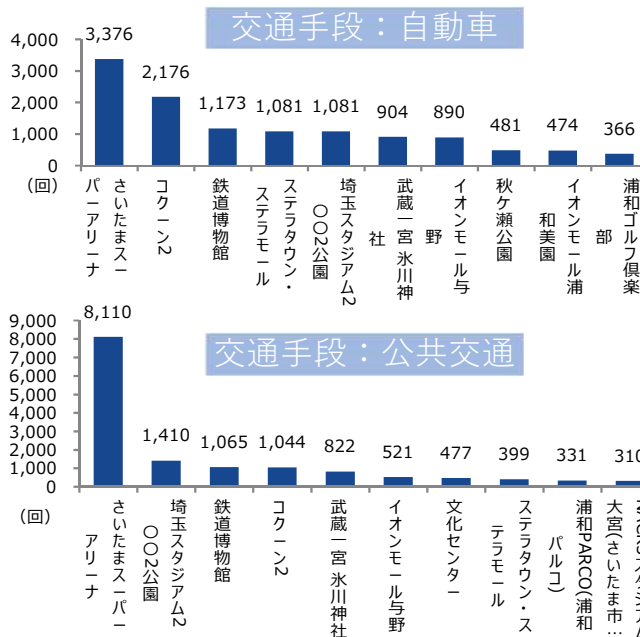


- 1位 東京都(32,360人)
- 2位 千葉県(8,027人)
- 3位 神奈川県(6,993人)
- 4位 栃木県(4,142人)
- 5位 茨城県(3,921人)
- 6位 群馬県(3,555人)
- 7位 愛知県(1,117人)
- 8位 大阪府(979人)
- 9位 福島県(962人)
- 10位 長野県(916人)
- その他(6,034人)

出典：株式会社NTTドコモ

株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計※」

観光施設等を目的地とした検索回数ランキング



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」



資料：国土交通省「まちなかウォーカブル推進プログラム」

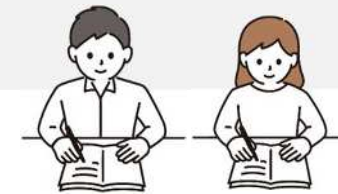


資料：全国二地域居住等促進協議会ホームページ

keyword

職住近接

子育て



将来シナリオ

【市全体】

- リモート授業や時差通学制度の導入、隊列運行や自動運転、AI配車システムなどにより通学の負担が軽減しや**通学時間の有効活用**ができるようになっている
- **移動環境の向上によって進学先の選択肢が増えている**
- 若年層だけでなく**社会人や高齢の方も**モビリティハブや地域コミュニティのサロンでの**学習機会**がある

【都心部】

- 図書館や学習施設が充実しているだけでなく、道路空間でのカフェやオープンスペースなど快適な環境で勉強をしている方が増えている
- **車内でリモート講座の受講や自習ができるモビリティが走行している**

【郊外部】

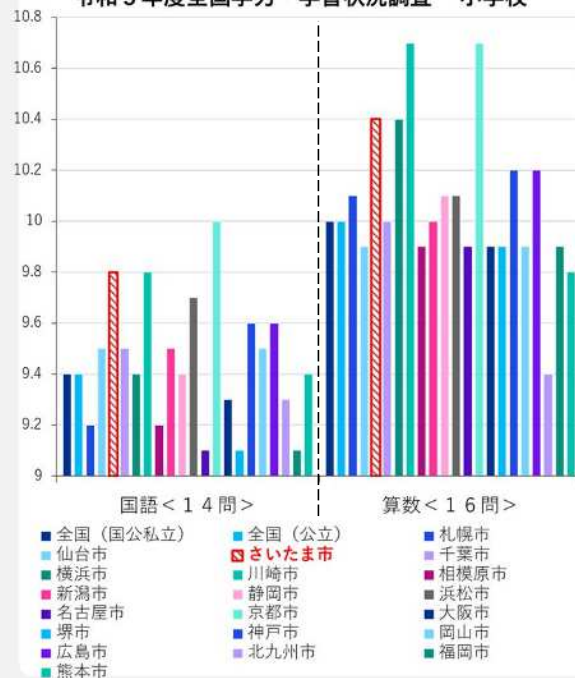
- 地域が中心になってアイデアを出し合い、塾や習い事の帰りの子供が使えるように乗合タクシーの運行時間が変更されるなど、地域交通を上手く使い、**親の送迎負担が減った**地域が増えている

兆候・見通し

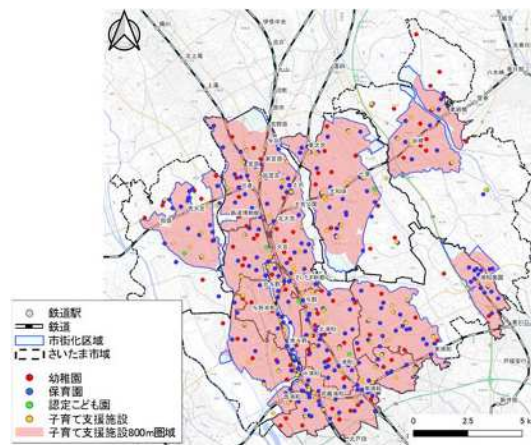
- さいたま市は、2024年の全国学力・学習状況調査で、中3の国語、数学、英語の全3教科で全国20政令市のトップなど、学力水準が高い
- 市街化区域内ではほとんどが徒歩圏で子育て施設を利用できる環境にある
- 若年世代や女性で自転車が多く使われている
- 自転車関連の交通事故が多く発生している
- アクセシビリティの問題が進学先の決定に大きく影響している
- 通学時の公共交通の遅延や乗り心地に関する不満が多い
- 多くの小学校で学習ツールとしてタブレットが配布されている

学力のデータ

令和5年度全国学力・学習状況調査 小学校



移動環境のデータ



子育て環境のデータ



年代別シナリオ

- 年代ごとにペルソナ像（登場人物）を作成、2050年さいたま市での生活ストーリーを用意
- それぞれの生活シーンはイラストにて表現予定



市内全体

幼稚園の後は英語の習い事に行き、その後公園で遊ぼう！移動は見守り付きのこどもバスがあるから安心！自動運転はどうやって動いているのかな？「ヌウ」が運転しているの？

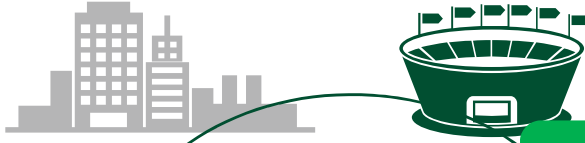
幼児

さいたま市は都内を含めた近隣市町にもアクセスが良いから、一生懸命勉強して、有名進学校に進学するぞ！移動時間もモビリティの中で勉強したり、塾のリモート講座を視聴したりして効率的に勉強しよう！

大宮



学生



近くにモビリティハブがあるし、買い物や駅までのアクセス便利だな。通勤の時もすぐに次のバスが来るから快適かつ遅刻しない。今週は浦和レッズの試合があるから近くのモビリティハブまではバスで、そのあと電動キックボードでスタジアムまで行って、近くのショッピングモールで買い物しよう！

浦和美園

若年

大宮

居住誘導区域



憧れの一軒家を購入！みんなでお出かけするために自家用車も購入、でも普段は公共交通が便利だね。休日は近くの川沿いの公園で遊んだり、駅前広場のイベントやマルシェに参加しよう！

見沼

ファミリー

大宮盆栽美術館



見沼

子育てが終わり夫婦で出かけることが増えた。まだまだ働けるぞ！週末は一緒に盆栽美術館に、来月は東北地方に紅葉狩りに行こう！大宮辺りの2DKも借りようかな？

ミドル

高齢になったから家を子供に譲ってまた都心部に引っ越したけど、やっぱり歩いてどこにでも行けるから便利！今週末は息子家族と遊園地に行く約束、近くのモビリティハブで待ち合わせして、久しぶりの高速バス。あと今から買い物にも行きたいからグリーンスローモビリティを呼び出さなきゃ。公共交通は徒歩とセットだから健康づくりにも良いよね

東京

大宮



高齢者

- 職業別の生活ストーリーを用意
- それぞれの生活シーンはイラストにて表現予定



都市と交通の未来像（全体イメージ）（案）

【イメージ作成の考え方】

- 幹となる鉄道、枝となるバス路線、葉となる地域交通からなる幹枝葉の交通ネットワーク
- 幹枝葉のそれぞれの交通をつなぎ、人々の交流を生むモビリティハブ
- 幹枝葉を、みんなでつくり、守り、育む（盆栽のように手を加えて育てる）
- 充実した交通網と都市としての魅力が作りだす豊富な暮らしの選択肢
- 交通からまちの魅力を高めることで実現する、ウォーカブルな都市空間

